

京都造形芸術大学で全3回「連続セミナー ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー」の Step1 が開催 3/25-27、主催：VTS ジャパン実行委員会

Visual Thinking Strategies (VTS) とは、「みることを基本に、グループ鑑賞を通じて思考する力を養う教授法」である。1980年代にアメリカで研究・調査され、現在は世界のさまざまな国で用いられている。日本でも対話型鑑賞として各地で実践されてきているが、現場からはまだ多くの疑問や不安の声も聞かれている。一方、京都造形芸術大学では、福のり子教授が中心となり2004年から学生が主体的な鑑賞者になって、ファシリテーション能力を身につける「アート・コミュニケーション・プロジェクト (ACOP)」が実践されてきた。こういった経緯から、日本の教育現場や美術館における鑑賞教育の質の向上を目指そうとニューヨーク近代美術館 (MoMA) 教育部長として VTS を発展・確立し、普及させてきたフィリップ・ヤノウウィン氏を招いて理論と実践を学ぶ全3回「連続セミナー ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー」が企画されたのである。その Step1 が、3月25～27日まで京都造形芸術大学で開催された。(Step2:8.9-14, Step3:2012.3.27-4.1)



3月25日、会場となった大教室は多くの受講者でいっぱいになった。募集時には100名を予定していたが、日本全国、そして香港からも180名の応募者があり、工面のすえ140名分を確保したという。折しも東日本大震災の発生から10日余り。会に先立ち実行委員長福のり子教授は、開催延期も考えたこと、ヤノウウィンさんは家族の反対も押し切って来日してくれたこと、被災地からの受講者数名が悔しい思いでキャンセルをされたことなどに触れ、そのうえで、「この VTS セミナーが受講者ひとり一人にとって、生きる力をもち続け、希望をもった社会を実現するために腹をくくって決断する機会になればいいな

と思っています」と力強くあいさつした。

ヤノウウィン氏はレクチャーを始めるにあたり、「わからないことがあったら、いつでも質問してください」と親しく促し、VTS の背景にある理論と実践について解説した。理論的背景を体系的に紹介する機会は日本初であり、特に、アビゲイル・ハウゼン (Abigail Housen) の美的発達段階論などは説得力をもって受講者に響いたようだ。また一方、「この絵のなかで、いったい何が起きているんだろうか?」、「絵のどこから、そう思ったの?」、「そのほかに、もっと発見はありますか?」という3つの質問を用いて、実際に作品画像を見ながら受講者と対話して考えていく VTS を自然に展開し、実践の方法論を提示していった。会場では活気あるディスカッションが生まれ、「日本人はシャイだから、難しいよ」と助言を受けたというヤノウウィン氏にとって、うれしい裏切りでもあったようだ。しかし、そのように次々に発言を引き出すということは、ヤノウウィン氏の高い技術力の証左ともいえる。会場は緊張感と期待感にみちていた。

26、27日はヤノウウィン氏のレクチャーのほか、ワークショップも行われた。大野照文氏 (京都大学教授、同総合博物館館長) は、ハマグリを未知の生物としてとら



ヤノウウィン氏によるセミナーは、理論を押さえながら受講者と VTS の実際を示してくれた



実行委員長である京都造形芸術大学の福のり子氏

え観察、推論を重ねる「具体新書—おとなが学ぶ二枚貝—」を行い、他教科への応用を示唆した。伊達隆洋氏 (京都造形芸術大学講師) の「聴く・応答する対話」では、相手の発語を言い換え (パラフレーズ) する対話を通して、対話型鑑賞をより建設的な学びの場へと導くファシリテーターにとって、いかに「聴く」ことが重要かを示された。

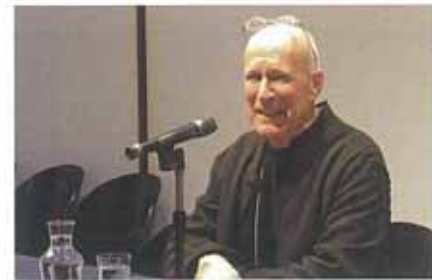
充実した3日間のセミナーを振り返り、実行委員長福のり子氏は、「観察力や批判的思考力、そしてコミュニケーション力は、日本がこんな状況だからこそ、今までもにもまして、教育の現場に限らず、日々の生活のなかで痛切に求められているのではないのでしょうか。今回開催しました Step1 では VTS の基礎理論を、過去の調査、研究から学んでいただきました。8月に開催します Step2 では、受講者ひとり一人の「現場」に即した内容のセミナーを、多くの実践とともに展開していきたいと思います」と展望を述べた。

人が生きるうえで、アートはなくてはならないもの。アートは「生きる力」を与えてくれる、力強い存在なのだ。鑑賞の方法が変われば、美術館も、学校での鑑賞教育も、もっと魅力に溢れたものになるだろう。

⑩



会場は140名もの受講者でいっぱいになった。真剣な眼差しと緊張感がみなぎった



セミナー前夜に催された「フィリップ・ヤノウウィンと VTS について語る会」でも参加者からの多くの質問に応えられた